

なりたい自分に
なったらいいやん



なりたい自分に
なったらいいやん

原案 吉本 由美
絵 和泉 萌
監修 人権啓発課

なりたい自分に
なったらいいやん



①

ユウはもうすぐ中学生。でも、ちょっと、ゆううつそうです。

ユウ

「来週入学式か… スカートの制服着るがいややなく
なんで、男子女子でスカートとかズボンとかって決めるがやる」

そこへ、お兄ちゃんがやってきました。

お兄ちゃん

ユウ

「どうしたが、ユウ」

「あのねお兄ちゃん、中学校って、なんで男子と女子で制服とか
髪型とか分けられるが？
あー わたし今までどおりズボンがいい。
スカートなんてはきたくない」

お兄ちゃん

「そんなにスカートが嫌やったら、僕の制服着ていく？
私服で行くわけじゃないし、校則違反でもないやる」

ユウ

「えっ そんなことしてえいが？
でも、まあ、制服には違いないもんね。
うん、貸して。それで行く！
お母さんに内緒で！」



②

そして入学式の日。

ユウは、お兄ちゃんの前で制服を着ていきました。
玄関で靴をぬいごうとしていたら、
先輩たちがコソコソ話をしています。

先輩 1

「あの子、女の子じゃない？なんで男子の制服着ちゃうが？」

先輩 2

「どうしたがるね。変な子やね」

ユウは聞こえないふりをしていましたが、
先輩たちは、ユウのほうに近づいてきました。

— ぬく —



③

先輩たちは、ユウの前に立って、恐い顔をして言いました。

先輩1 「ねえ、なんで男子の制服着ちゆうが？」

ユウ 「スカートはきとうないき、お兄ちゃんに借りた」

先輩2 「それって校則違反じゃないが？女子やに、おかしいやろ」

ユウ 「自分が着たいと思う制服を着たらいかんが？」

先輩1 「いかんやろー。男女別って決まっちゆうがやき。着替えてきいや」

ユウ 「え、いやや」

先輩2 「あんたさつきから、敬語も使えんが？
なんか生意気やね。

目立ちたいだけながじゃないが？」

先輩1 「調子にのりなよ。先生に言うちやろ」

そうやって、先輩たちは行ってしまいました。



④

取り残されたユウの方を、周りの人がチラチラ見えています。

ユウ

(ええ…これっていかんことなが？
先生呼ばれたら、怒られるろうか？
このまま教室に入ったら、いじめられるろうか？
ああ、もう、帰ろう。
お母さん、ごめん！)

ユウは、教室にも行かず、入学式にも出ず、そのまま家へ帰ってしまいました。



⑤

ユウが一人で家にいると、お母さんが家に帰ってきました。

お母さん

「ユウ！なんで家におるが！
入学式はどうしたが！
お母さん探したで！
なんかあったが？心配したで」

ユウ

「ごめんなさい。
あのね、お母さん。
わたし、今日お兄ちゃんの制服で行ったがよ」

お母さん

「え！なんで！あんた何考えちゆうが！」

— ぬく —



⑥

ユウ

「どうしても、スカートはきたくなかったがよ。
女の子らしい格好とか、リボンとかフリルとかも好きじゃないし。

【女の子】に当てはめられるが、ずっと嫌やった。
制服やって、ズボンがはきたい。

これってわがままなが？
なんで選べんが？

男子はズボン、女子はスカートって、だれが決めたが？

スカートじゃないと学校来たらいかんっていうなら、
学校も行きたくない」

— ぬく —



⑦

お母さんはおどろいて言いました。

お母さん

「ええ？あなた、制服くらいで何言ゆうが。
集団生活やきん、学校の時間くらい我慢しいや。
せつかくあなたの制服買うたに。
わがまま言いな」

ユウは、黙って聞いていました。

でも、次の日から、
ユウは制服のスカートに着替えると、具合が悪くなってきて、
学校にも行けなくなっていました。

— ぬく —



⑧

お父さんもお母さんも、ユウのことが心配でたまりません。二人は、学校に来ているスクールカウンセラーの先生に相談しました。

お母さん
「先生、うちの子、スカートの制服を着たくないって言うて、スカートはくだけで具合が悪くなりゆうがやけど、
どういうことながでしよう？」

先生は、お父さんとお母さんの話を聞いて言いました。

先生
「制服のスカートをはくのがつらいんですね。
ユウさんは、なんで女子の制服が嫌なんだと思いますか？
どんな気持ちで、お母さんに話したんでしょうね。
時間はかかるかもしれないけど、もう一回、
ユウさんとゆっくりお話してみたらどうでしょうか。」



⑨

その夜、お父さんとお母さんは、ユウと話をしました。

お父さん

「ユウ、ゆっくりでかまんき、これからユウがどうしたいか、制服以外でも困っちゃうことはないか、お父さんに教えてよ。お父さんもお母さんもお兄ちゃんも、ユウの味方やきね」

ユウは、自分の気持ちを、ちよつとずつ話しました。

【女の子】って決めつけられたくないこと

髪型や服装など、男女で分けて決められた校則がづらいこと
身体が変わってくることへの不安 などなど

お母さん

「うーん。ユウ、話してくれてありがとう。」

確かにね、あんたはずっとズボンしかはいてなかったし、七五三のときも着物着せるが大変やった。お兄ちゃんとおそろいがいいって泣いて泣いて。ちよつと時間をちようだい。

お母さんも、ちよつと頭を整理する時間がほしいな」

数日後、お父さんとお母さんは、学校に相談しました。制服って、なんで選べないの？ということのです。



⑩

学校では、制服のあり方について、話し合いが始まりました。先生たちは勉強会を開いて、「性別」にはいろいろな捉え方があることを学びました。

「身体をつくり」から見た、身体の性。

「自分で自分の性別をどう思っているか」、という心の性。

「自分をどのように表現するか」という、表現する性。

「誰を好きになるか、ならないか」、という好きになる性別。

— ぬく —



かわいいものが好きでお化粧をする男の子もいるし

いつもズボンでわんぱくな女の子もいるし

身体は女の子なんだけど、

自分は絶対に男の子だと思っている子もいるし、

同性を好きになる子もいます。

あなたもわたしも、

それぞれみんな自分の「性」を持っています。

そして、みんな自分の性を大切にしています。



⑫

生徒たちも、授業でいろいろな性について学びました。保護者会でも、研修をしました。

生徒1

「たしかに、女子になりたいわけじゃなくても、ピンクとかフリルとか好きな男子もおるよね」

生徒2

「男の子から、私じつは心は女の子ながよ、って言われたらどう答えたらいいかな」

保護者1

「わたしの時代は、男は坊主にせないかんとか、今より校則がきつかった。つらい子もおったろうな」

制服のあり方について、何回も話し合いが行われました。

そして、9か月後。

— ぬく —



⑬

先輩1 「ねえ、聞いた？来年から、制服が選べるようになるがやと」

先輩2 「聞いた聞いた。
ズボンと、キュロットと、スカートがあるがやる。
リボンとネクタイもあって、男女関係なく
好きながを着いてかまんがやって」

先輩1 「それやったら私、リボンとズボンがえいなー 動きやすいもん」

お兄ちゃん 「僕も実はスカートはいてみたかったがよね。
ユウがはかんがやったら、僕がもらおうかな…」

— ぬく —



14

4月。
同級生と一緒に、楽しそうに学校に通うユウの姿がありました。

新生も、みんなそれぞれ、自分に合った制服を着ています。

なりたいたい自分になれたらいいんですが、
まだまだ今の世の中では「男らしさ女らしさ」にしばられたり、
多数派の人の「当たり前」に
少数派の人が入れなかつたりします。

でも、ちよつとずつ変わりつつあるこの社会。
みんなが、なりたいたい自分になれるといいな。

おしまい